



バプテスト心身障害児(者)を守る会
愛の手を

第183号

発行責任者
 社会福祉法人 バプテスト心身
 障害児(者)を守る会
 重症心身障害児施設 久山療
 育園重症児者医療療育センター
 理事長 山田 雄 次
 編集責任者 小 脇 勇
 福岡県糟屋郡久山町大字
 久原 1869
 ☎(代) (092)976-2281
 FAX (092)976-2172

「新たな挑戦を目指して」

事務局長 梅木 光男

今回の社会福祉法の改正に伴って久山療育園も大きく変わろうとしています。

生命を守り、地域福祉事業に貢献するという大きな使命を担っています。このような状況にあつて私は「ニーバーの祈り」が心に浮かびました。

この改正の主な内容としては、社会福祉法人としての経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、内部留保の明確化と余裕財産を社会福祉の充実のために諸施策の作成を義務付けるというものです。

「神よ、変えることのできないものを受入れる平静な心を、変えなければならぬものを変える勇気をこの二つのものを見分けるための知恵を私に与えてください」と
 米沢藩の中興の祖と言われた上杉鷹山は公助互助、自助の三助方式を提唱し実施し改革に成功しました。しかし今では次第に「公助」が後退しつつあります。

今後一年にわたって速やかに具体化する必要があります。今まさに40年の歩みを総括するとともに新たな理念と夢を掲げて新しい一步を踏み出す時が来ました。

一つの時代にもこのバランスの中で生きることが求められています。これらを解決するキーワードは「選択と集中」そして「環境適応力」です。

これから少子高齢化社会に突入し、医療・福祉・介護スタッフの確保充実が最も大きな経営課題の一つです。

「危機」という言葉は2つの文字で成り立っています。1つは危険(リスク)を意味し、もう1つは機会(チャンス)を意味します。まさに「ピンチはチャンス」なのです。

現在の利用者の皆さんへのサービス提供の質を高めるためには職員及びボランティア、支援者の方々の大きな奉仕と支えがなければなりません。

危機感を持続しつつリスクを恐れず新しいものに挑戦する行動力と、将来の変化に素早くかつ課題に対する柔軟力、そして明確なビジョンのもとに開かれた組織の実現に向けてこの40周年という節目の年に皆で力を合わせて頑張っていきましょう。

またこのためには久山療育園という経営主体が持続的安定的に黒字基調でなければなりません。

官公庁の行政指導や監査及び第三者による評議員機関との連携を含め経営の舵取りは従来以上に厳しいものがあります。

我々には地域の皆さんとともに障害児者の

主張

「創立40年の節目の年を迎えて、久山療育園のこれ迄とこれから」

— その1. 感謝の中でこれ迄の歩みを振り返って —

理事長 山田 雄次

■まず感謝■

福岡と北九州のパプテスト教会の中で生まれた「重症児者と共に生きる運動」の10年の取り組みが実り、重症児者ための開かれた施設(収容施設)としてではなく、重症児者が社会の真中位置づけられる福祉社会(共同体)づくりの拠点となることを目指して1976年の秋、久山療育園が開設されました。

開設後、難しい問題に直面することが幾度もありましたが役員を始めとする職員、関係者の協力により懸命な取りくみによってクリアーし、常に新しい課題にチャレンジしつつ重症児者の医療・療育事業の充実を期して歩み続けて来ました。未だ途上ですが2015年度、新たに「在宅支援センター」を開設し、創立40周年の節目を迎えることが出来神の恵みの導きと感謝の思いでいっぱいです。

■重症児者福祉制度の流れの中での久山療育園■

障害児福祉の大きな流れで捉えると重症児福祉は他の児童福祉に比べて20年の遅れがあったことを知っておかなければなりません。

し、求められている在宅支援の課題を選びとり、新しい道を踏み出しました。

敗戦直後の1947年新しい日本国憲法の精神に基づき、すべての児童の幸福をはかるため、「児童福祉法」が制定されました。しかし重症児には今日の名称がなく、「不治永患児」「重複欠陥児」と呼ばれ法律の適用が除外された暗い時代が続きました。今日の重症児福祉制度を実現させた心ある先達たちと全国重症心身障害児(者)を守る会の皆さんの懸命の取り組みが社会と行政を動かし、20年遅れて1967年の「児童福祉法」の改正をもたらし、重症児者施設が法律に基づく施設となりました。その後高度経済成長の中で重症児者施設の建設が全国に拡がり、久山療育園は全国で51番目の施設として1976年の秋、念願の開設を果たしました。

久山療育園開設7年後の1981年の国際障害者年を契機としてノーマライゼーションの福祉思想が拡がり、重症児者福祉においても在宅・地域生活を前提とした支援の必要が唱えられ、1989年度から重症児者の通園モデル事業が全国5ヶ所の重症児者施設で開始され、久山療育園はその5ヶ所の中の1施設としてモデル事業に参画

久山療育園が通園モデル事業の取り組みを始めてから後の重症児者医療・療育の流れをたどると、2000年には「社会福祉法」(社会福祉構造改革)

による「措置制度」から利用契約制度(「支援費制度」)への移行があり、亦2004年の3位一体改革に基づく「今後の障害保健福祉施策(グランドデザイン)」の実施(2006年)から、2014年度の「障害者総合支援法」の施行に至る流れにおいても制度と施策において大きな変化があり環境は年を追って厳しさを増して来ています。その中で久山療育園が創立の理念に立ち、設立の目的の実現に向け使命感をもって在宅支援の拡充・強化のプロジェクトに取り組んで来たことは特筆すべきことであると考えています。

■21世紀に向けた事業の展開の指針(グランドデザイン)のもとでの歩み■

1)施設の老朽化が目立って来たので創立30周年を機に園舎の建て替えを旨とす。

2)理念継承者の人材の育成。理念の展開として福祉共同体社会実現のために外来と通園事業の拡充。

4)入所者、在宅重症児者)のQOLを旨とす。

以上4つの命題は創立25周年を迎える2000年度の理事会・評議員会で採決された久山療育園の21世紀のグランドデザインで、30周年に向けての事業推進の指針とされたものです。グランドデザインの1番目の「施設の全面改築工事」については、公的資金の援助が0円ですべて自己資金での建築が求められる中、開園以来パプテストコロニー友の会(教会)と利用者の保護者をはじめ理解を下さった多くの市民の方々からの献金で積立てられた将来計画積立金により2008年に完成させ、1つの課題(施設の充実整備)のクリアーを果たしました。

療育園の21世紀のグランドデザインで、30周年に向けての事業推進の指針とされたものです。グランドデザインの1番目の「施設の全面改築工事」については、公的資金の援助が0円ですべて自己資金での建築が求められる中、開園以来パプテストコロニー友の会(教会)と利用者の保護者をはじめ理解を下さった多くの市民の方々からの献金で積立てられた将来計画積立金により2008年に完成させ、1つの課題(施設の充実整備)のクリアーを果たしました。

園舎の全面改築工事の完成を機に懸案であった名称を「久山療育園重症児者医療療育センター」に改称し、続けて2段階から成る中期5ヶ年計画・「在宅支援プロジェクト」の策定が行われました。その第1段階としては短期入所の6床を含む7床(1床は長期入所)の増床とそのため増築計画があり、更に第2段階としては隣接農地の久山町からの取得による「在宅支援センター」の開設計画が続き、この6年間、園を挙げての取り組みにより実現を果し、「在宅支援棟」と「重症者ホームひさやま」の働きを加え、新しい体制での歩みが緒についたところからです。

■39年の歩みの評価■

私は中期5ヶ年計画の策定が概ね終わり、久山町との隣接農地の取得のための交渉が始まった2009年に理事長に就任し、それから6年間計画の実現に向

けた取り組みの責任を負っただけで、これ迄の長い久山療育園の歩みがどうであったかということについて述べる立場の者ではないと思うのですが、言えることは、教会という土台(祈りと支え)の上に立てられ、地域社会からも働きについての理解と支援を頂き、設立の目的である「重症児者と共に生きる福祉社会(きょうどうたい)づくり」の実現を目指し、使命感をもってひたむきに課題に取り組んで来た39年の歩みであったということです。

先の4つの項目から成るグランドデザインは、その後の園の総合的な事業の展開の中で反映され、尚成長の課題を残しつつ重症児者施設に求められている様々なニーズに応える相当の力を備えた施設(重症児者医療療育センター)と成ったということは何よりのことであり、感謝の極みです。

50床の入所施設としてスタートし、段階を追い入所者用94床(短期入所6床を含め)、入居者用10床(重症者ホームひさやま)合わせて104床を備えた施設へと規模を拡大し、働きの拡がりと共に働きの内容において豊かさを求めた取り組みが進められていくことを喜んでいきます。

39年の歩みを踏まえて次号においてポスト40年を望む思いを述べさせて頂きたいと思っております。



制度・情勢

「在宅支援センターの開所を振り返って」

センター長 宮崎 信義

2008年の施設全面改築に続いて2009年度から「在宅支援プロジェクト」構想が立てられ、2010年度からは「在宅支援構想委員会」が発足しました。2012年度には「在宅支援プロジェクト」第一次基本計画として7床増床が成り、94床(医療法)、88床(児童福祉法)が認可されました。その後、2012年9月には第二次基本計画開設準備室を設置し、その計画のもとに2014年から「在宅支援センター」の建設が始まり、2015年6月に竣工、2015年7月1日から

単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点であることから、地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行なう者は、相互に協力することが大切です。福祉サービスが必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努める事業として「在宅支援センター」ビジョンが示されました。

創立40周年記念事業として「在宅支援センター」(グループホーム「重症者ホームひさやま」+「在宅支援棟」)の事業を開始致しました。

久山療育園は開設後40周年を迎えましたが、以上のように開園当初から入所事業と同時に今日の「在宅支援三本柱」に相当する通園・短期入所・訪問に向けて歩んできました。先ず短期入所事業ですが、1976年(昭和51年)に緊急一時保護制度

創立理念に掲げられていますように、「久山療育園は重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」ことから、個人の尊厳の保持を旨とし、利用者が心身ともに健やかに育成され又はその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように支援するものとして、良質かつ適切なものでなければならぬと考えています。

また「従って、久山療育園は

の懇談や入所希望アンケート調査を行い、「入所待機者」として登録された方々が「直ちに」(1~2年のうちに)、「5年先」(「いずれは」と思えば複雑でしたが、「直ちに」から「5年以内」と挙げられた方が23人もおられると確認し、具体的に2009年度から「在宅支援プロジェクト」(第一段階及び第二段階)が立ち上げられました。以下に要約させて頂いた保護者の方々の声を挙げます。

①社会との関わりや将来の不安についてお尋ねします。・年毎に親の年齢の重みを感じます。いづれ家庭での介護も困難になり、他者や地域にお願いしなければならなくなるかもしれない。短期入所制度や通園事業のおかげで在宅が続けられています。しかし、親の体力が衰えたから、一緒に住める「ケアホーム」のような施設があればいいなとも思います。しかし、いよいよ限界が近づき親亡き後は久山療育園にお願いしたいと思えます。在宅重症児者にもそのような受け皿が備えられるのが不安です。

業や自立支援協議会事務局)とも身近に接することが出来る場です。「在宅支援棟」の機能と役割として企画したことは、2階の「第二療育室」が連絡通路で本体の通所事業詰所や外来と繋が

②在宅生活において困る事・・・アンケート調査(108人)57回答(53%)・・・日常生活介助において困る事は、移動・入浴介助が多かった。夜間帯の介助により眠れない、外出出来ないという意見があった。特に介護者の体調が悪くなった時・急病になった時に対応できないという意見は4割程度、介護者に急用

③今後あったら良いと思われるサービス(複数回答)・・・一時預かりの場(当日対応)44回答(40.7%)、中期入所(1週間以上)27回答(25%)、総合的な情報提供の場18回答(16.7%)、移動・外出サービス17回答(15.7%)、重度訪問介護14回答(13%)、訪問リハビリ介護14回答(13%)、ケアホーム12回答(11.1%)、訪問看護6回答(5.6%)、訪問療育4回答(3.7%)。

「生涯を託すに足る家」「終の棲家」である「重症者ホームひさやま」次に福祉施設であるグループホーム「重症者ホームひさやま」に入居された10人の方々に満足して頂ける障害福祉サービスが出来ているのでしょうか。昨年7月の開設前までに協議し、準備したホームの機能は以下の通りです。

④将来的な入所について
(1)施設入所について・・・考えている70回答(64.8%)、考えていない18回答(16.7%)、迷っている14回答(13%)、未回答6回答(5.5%)。

「在宅支援棟」の主要な役割は、在宅重症児者を支える三本柱である通所事業・短期入所事業・相談支援事業・訪問(リハビリ)事業からなる在宅支援事業を統括する基地としての中枢的機能が求められています。在宅支援棟の通所第二療育室及び地域連携室(相談支援部門)が近くにあり、短期入所申し込みの調整や地域からの来訪者地域や行政との連携、委託相談支援専門事

①日中活動の健康保持と活動支援
入居者の日中の医療サポートは、主に久山療育園の外来(通所)看護師が行う。入居者の健康チェックは朝、外来(通所)看護師がホームを訪問して実施し、その上で日中の活動が参加できるかを判断する。診察が必要な場合は、久山療育園の外来受診をお勧めする。内服薬についてはホーム職員が管理する。歯科検診と治療は、久山療育園の歯科が利用できる。専門病院の受診が必要な場合は、久山療育園

外来から紹介する。専門病院受診の際は、ご家族の付き添いをお願いする。

②夜間生活の安全・安楽・安心安眠を支える環境整備と見守り専門病院や久山療育園の医療病床に入院する場合は、長期にわらない場合は居所も確保する看護役職者によるオンコール体制で支援。

③医療のバックアップ体制

(1)入居者は外来診療となる。入居時外来診療録を作成する。(2)園からの移動者は主治医が担当医として継続する。(3)年2回血液検査・レントゲン検査を行う。(4)投薬は、原則として久山療育園より行う。(5)週一回程度の回診(外来定期受診・往診)を行う。(6)夜間・休日は療育園当直医に外来診察・診療を依頼する。開設後半年余りを経過した段階での「重症者ホームひさやま」の課題と評価(保護者の声)利用者アンケート調査)を実施しましたので以下に述べます。

①制度上の課題と懸念…介護保険と障害者施策という二つの制度が並立する。現状では身体障害者療護施設や重症心身障害施設の入所者等は介護保険の被保険者とされませんが、将来的にも障害福祉サービスを受けられるかが懸念されます。障害福祉サービスと介護保険給付とのギャップがあり、医療福祉に格差が生じるからです。

②運営上の課題と持続可能性
グループホームに一般的な人

員配置基準と重症心身障害児者に必要な職員配置との較差があります。開設準備室から提案された人員配置はその人件費自体で総事業費収入を超えるものでした。「それでもなお必要」との声から経常収支が予算上年間約1,900万円の赤字を計上しています。持続可能な事業となるには収支均衡とはいかなくとも赤字額が半分程度に近づくと予算や補助金を望んでいます。

③医療的サポート
利用する医療機関との連携と利便性をはかること、併設している短期入所病床に医療入院として緊急受入れを実施する(1床程度)。また専門病院を受診する時の移動・移送に備えることが必要です。

④持続性のある運営…2016年度予算では、「重症者ホーム」を主とする「在宅支援センター」の経常赤字は約1,930万円+減価償却費等の約1,300万円、計約3,230万円の赤字です。全国の支援者からの献金のおかげとは言うものの法人・施設の経営努力による「利用者還元」「社会還元」「福祉活用」であることは間違いありません。

⑤「福祉活用」
保護者の声「重症者ホームひさやま」開設後
開設後半年余りを経過して、「重症者ホームひさやま」の利用者様(保護者様)の評価の声を利用者アンケート調査にて実施しました。

れましたか」…満足8、概ね満足2名。

②「食事については満足されていますか」…満足6名、概ね満足1名、余り満足できない2名記入無1名。

③「入浴や清潔については満足されていますか」…満足7、概ね満足1。

④「排泄等については満足されていますか」…満足7名、概ね満足1。

⑤「意見欄…食事(酔物の物)の味が濃い日がありました。別の日はおいしく感じました。ホームでの献立が限られたものになるのは仕方がない。通所での昼食も楽しみにしています。家庭でも排泄介助は大変でした。ホームでの職員の介助を本人も気にかけているようです。他の生活介護の通所も考えたい。自分の部屋を自分のものとして自由に使えることに満足しているようです久山療育園に施設入所していた時は制度上の制約から利用出来なかった通所利用や他の生活介護の利用が出来ること本人にとってはとても嬉しい。

2. 日中活動について
①「当センターの通所について満足されていますか」…満足8名、概ね満足2名。

②「ホームでの療育や行事について満足されていますか」…満足7名、概ね満足2名。

③「他の生活介護事業所の利用について満足されていますか」…満足5名、概ね満足1名、余り満足できない1名。

④「外出や外泊について満足さ

れていますか」…満足3名、概ね満足5名。

⑤「意見欄…通所は楽しく過ごしています。ホームでの仕事(家事)が増えるの楽しいのでは。通所はパソコンが出来る木曜日(子ども)の反応に比べられるように頑張りたい。生活介護事業所が遠くても行きたい時に気軽に利用しやすいシステムが出来ればありがたい。家族がいない方とか頻りに面会に来られない方の外出や外泊(旅行)などに対応した企画がほしい。

3. 健康面について
①健康診断や体調不良時・合併症の対応には満足されていますか…満足6名、概ね満足2名。

②「意見欄…これまで通院が困難になっていましたので、ホームでは医療の支援があり安心して入居しても風邪などをひかなくてありがたい。温かいお世話のおかげと感謝しています。何かあった時にその都度説明や連絡して頂いていることありがとうございます。

4. ホームの設備と環境について
①「生活環境や設備については満足されていますか」…満足8名、概ね満足1名。

②「プライバシーに配慮したサービスの提供について満足されていますか」…満足8名、概ね満足1名。

③「意見欄…広くて新しい部屋が在宅の頃と同じように寝転がっています。部屋に水道設備

があるのは良かった。面会時にも使っています。家族の手拭は持参しています。倉庫も使用したい。家族宿泊室の利用時にエアコンを使用しても布団が薄くて寒さを感じた。

5. 職員の接遇について
①「職員の接遇(言葉や態度)については満足されていますか」…満足8名、概ね満足1名。

②「意見欄…一人でテレビを見るのが好きですが、職員さんとお話したい。声掛けして下さい。外泊や外出の件で食事の停止を1週間前までではなく4、5日前までに出来ないでしょうか。

6. 費用(自己負担)について
①自己負担の額については満足ですか…満足2名、概ね満足6名。

②「意見欄…障害年金やその他の手当で済んでいることがありがたいです。重症児者施設入所見より出費は多くなりましたが、他の重症児者ホームに比べて低く抑えて、頂いていると思いません。それでもこれからの生活に不安はありません。

7. 「グループホーム」や重症心身障害児(者)制度について御意見を伺います。
今の制度や補助では広がるのは難しく、現状を見て頂き先々の生活を考えて頂きたい。通常のグループホームや小規模施設では医療の支援が無く「終の棲家」にはなり得ない。施設入所もためらい、またホームにも入れない高齢の親が大勢います。医療度が高く施設に入所しながら日中に通所や生活介護事

業所を利用できれば幸いです。高齢の親は自分亡き後を心配しています。親亡き後も近縁者(兄弟姉妹など)に頼ることなく、色々なサービスを利用でき、かつ楽しく生活できる制度が続くといいと思います。送迎が出来るように市町村の援助を望みます。介護付きの福祉タクシーの利用やヘルパーの利用がしやすくなれば生活にはりや楽しみが増える。自費で交通費やヘルパーを雇えば年金内で収まらなくなりません。

2015年7月に「在宅支援センター」の事業が開始され1年近くになりました。「重症心身障害児(者)と共に」「開かれた施設に」「福祉社会づくりの拠点に」という理念の途上にこの働きがあります。重症者ホームに入居されておられるご家族の声を聞くことが出来ました。入所・通所事業・短期入所事業は継続されています。また相談支援事業や訪問事業が進められていくことで地域との連携が深められ密度をまし、より利用者の必要に応じて行けることを望んでいます。「在宅支援センター」がこれからも重症児者の必要に応じていけることは、「愛の手を」の読者の方々、コロナー友の会やボランティアの方々、地域の方々のご支援があればこそだと思っています。

支援者からの声

第十六回

「いのちの響き合い」

日本バプテスト連盟 仙台長
命ヶ丘キリスト教会
牧師 金丸 真



私と久山療育園との出会

いは、今から10年ほど前、福岡有田教会に牧師として招聘された頃です。当時、私は、福岡のバプテスト教会の集まりである福岡地方連合の社会委員会に加えていただきました。この社会委員会は、社会の諸課題に向き合う様々な活動をしていましたが、その中で、毎年夏に行われる久山療育園ワークキャンプの企画運営という大切な働きも担っていました。当時、異動によって、その久山療育園ワークキャンプの企画運営の担当者がいなかったという事で、社会

委員会に入りたての私が、何かわからないまま、久山療育園ワークキャンプ担当者ときれました。ですから、意識をもって自分から久山療育園にかかわらせていただいたというよりは、恥ずかしながら、「担当者にさせられた」という受け身の姿勢でスタートしたことを覚えています。しかし、今では、それも神様のお導きだったと信じています。この久山療育園との出会いなくしては今日の私がいらないと思うくらい、沢山のことを学ばせていただいたからです。

特に、久山療育園が重症児者の方々を、非常に高い専門性をもってお支えするだけではなく、「ミットレーベ」に「共に生きる」という言葉に表されているように、支援者、被支援者という関係性を超えた「共に」という相互の「いのちの響き合い」を大切にされてきたことは、私にとって大きな学びとなりました。久山療育園ワークキャンプの企画運営をさせていた

高齢の方まで幅広い年齢層の方々が、何ができるとかできないとかを超えて、安心して「共に」時間を共有し、お互いのいのちを喜んでいることに、どれだけ励まされ、どれだけ原点に立ち返らされたかわかりません。

そのような中、2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。私は2011年4月から宮城県仙台長命ヶ丘教会に転任し、東北の教会の働きとして被災者支援活動を開始しました。このときにも、久山療育園で学ばせていただいた「共に生きる」という視点が、私たちの支援活動の大きな力になり、道しるべとなりました。そして、イエスさまの先立ちと執り成し

につながるのでと思わされています。

1976年に開園し、今年40周年を迎えた久山療育園。実は、私も1976年生まれです。聖書において「40」という数字には特別な意味があります。聖書において「40」とは新しい歩みのための準備の期間であり、ここから新しい出来事が起こっていく期待の数字です。私自身の人生を振り返っても、この40年の歩みを感じると同時に、40才、これからだ!とも思っています。同じように、久山療育園のこの40年の歴史を深く感謝すると同時に、この40年から始まる久山療育園が、これからますます「新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点となる」働きに、大きく用いられていきますように、心からお祈りし、期待しています。そして、この久山療育園の尊いお働きのために、これからも全国の方々と一緒に支えていきたいと、仙台の地から強く願っています。

2016年度(平成28年度)予算

2016年3月29日(火)開催の2015年度第3回評議員会、第4回理事会において2016年度の予算が審議され承認されました。予算の概要については、以下の通りとなります。

2016年度 資金収支予算書(法人合計)

自 2016年4月1日 至 2017年3月31日

単位：千円

科目名	2016年度予算額
《事業活動による収支》	
(収入の部)	
児童福祉事業収入	3,167
障害福祉サービス等事業収入	479,390
医療事業収入	759,670
経常経費寄附金収入	29,816
受取利息配当金収入	2,601
その他の収入	5,195
事業活動収入計①	1,279,839
(支出の部)	
人件費支出	956,555
事業費支出	136,409
事務費支出	86,875
事業活動支出計②	1,179,839
事業活動資金収支差額③=①-②	100,000
《施設整備等による収支》	
(収入の部)	
施設整備等寄附金収入	0
施設整備等収入計④	0
(支出の部)	
固定資産取得支出	10,000
施設整備等支出計⑤	10,000
施設整備等資金収支差額⑥=④-⑤	△10,000
《その他の活動による収支》	
(収入の部)	
積立資産取崩収入	0
サービス区分間繰入金収入	19,600
その他の活動収入計⑦	19,600
(支出の部)	
積立資産積立支出	90,000
サービス区分間繰入金支出	19,600
その他の活動支出計⑧	109,600
その他の活動資金収支差額⑨=⑦-⑧	△90,000
予備費支出⑩	0
当期資金収支差額合計⑪=③+⑥+⑨-⑩	0
前期末支払資金残高⑫	299,890
当期末支払資金残高⑪+⑫	299,890

I. 福祉をとりまく社会情勢

社会福祉法の改正により、社会福祉法人として当センターが担う役割りは増々重要になっており、また、社会福祉法人本来の使命を果たすことが求められている。

つまり、・社会福祉事業を确实、効果的かつ適正に行うこと。

- ・自主的に経営基盤の強化を図るとともに事業経営の透明性を担保する。
- ・提供する福祉サービスの質の向上をはかる。
- ・その為、社会福祉法人として必要最低限の財産を除き社会福祉事業又は公益事業へ再投資する義務が示されている。

II. 2016年度予算策定方針

経営基盤を強化するために、人材(財)に重点的に投資する

- ・将来を展望した事業の発展を期すために「小児科医」の雇用実現をめざす
- ・社会的要請に応え「障害者雇用」の促進を図る
- ・当法人創立40周年記念事業の円滑な推進

III. 2016年度予算概要

資金計画

<収入の部> 前年度予算対比 約3,220万円増

- ・診療費改訂により診療費収入0.84%引き下げが実施される。本体部分0.49%増、薬価1.33%減)その為診療費収入の減収が予想されるが、当センター収入に与える影響は大きくはないと推定する
- 但し、昨年度実績及び新旧職員移動等による実績減を見込み約160万円減。
- ・入所における障害福祉サービス収入・短期入所収入に関しては、単価の変動は無く、昨年度実績利用者増を見込み、約230万円増。
- ・今年度よりフル稼働(昨年度7月開所)となる「重症者ホームひさやま」(共同援助事業)に関して：前年対比約1,150万円収入増、赤字補てんとして、運営費に関する寄附金収入1,000万円を計上した。

<支出の部> 前年度予算対比 約6,290万円増

- ・人件費：前年度対比 約5,120万円増
 - ・前述した通り将来への投資として人財(材)確保のため重点的に措置
- ・事業費：前年度対比 約170万円増
 - ・ほぼ昨年度並み
- ・事務費：前年度対比 約1,000万円増
 - ・40周年記念事業関連で500万円計上
 - ・その他の支出は必要最小限度に査定

<事業活動収支差額> 前年度予算対比 約3,070万円減

2015年度 療育体験研究発表会

○リハビリテーション研究班

「マッサージ器はストレッチの代わりになり得るか」

マッサージ器による振動刺激により短時間で効果を得ることが可能であれば、その利便性が入所者の痙縮抑制や関節可動域の維持・改善に活用できるのではないかと考え検討した。個人差はあるが、個別評価により効果が認められる場合は、マッサージ器を使用する事も検討する。

○めぐみ棟看護②研究班

「高度脊椎変形のある重症心身障害児における摂食時の症状改善に向けた取り組み」

経管栄養から経口摂取へと移行して状態は安定していたA氏だが、食事摂取中の頻脈や肩呼吸が見られるようになった。症状改善方法として座位保持装置の角度を調整し、SpO2・HR値を比較検討したが症状改善には至らなかった。座位以外の姿勢や情緒面へのアプローチも視野に入れ取り組んでいきたい。

○ひかり介護1研究班

「ABC分析を取り入れた関わり方の検討」

2010年に入所以降日常生活の中で不穏状態が見られ、スタッフ間の対応統一を目指したがあまり効果は見られなかった。今回ABC分析を取り入れた研究を通し日常生活、特に入浴に着目し取り組んだ。ABC分析を通し、段階を踏んで先の行動を提示する事でこれからの行動を理解しやすくなったことも、不穏状態が減った一因と考えられる。

○呼吸管理研究班

「夜間の酸素飽和度低下に対して体位による改善を目指す取り組み」

人は体位を変えることに伴い肺気量・ガス交換など呼吸機能に関する種々の面に影響を与える。夜間の酸素飽和度の低下が明らかになったA氏に対し、現状確認・姿勢管理などポジショニングを検討して実施した。その結果、低下の原因は多角的でありそれぞれに対して解決方法を見出す必要があると考える。

○教育研究班

「日別指導計画書の改善への取り組み」

3年前より新入職員へ日別指導計画書を用いた指導を行うことでより効果的な新人指導に繋がられるように検討した。アンケート結果より書式の見直しに焦点をあて、基本形式を作成する事でプリセプターの負担軽減を図れると考えた。さらに新入職員を「みんな育てる」ためにも計画書の活用を病棟スタッフへ呼び掛けることが必要である。

○利用者の人権を考える研究班

「当センターでの不適切な支援への取り組み II」

昨年度の研究の考察から、今年度は権利擁護意識の向上・意見しやすい職場環境作りを図ることを目的に、アンケート調査・ワークショップを定期的に行なった。アンケートを継続したことで一定の成果はあったが不適切な支援の解消にはならなかった。ワークショップでは意見交換の中で様々な気付きがあり支援の改善につながったが、研究班での枠組みでは不十分であり施設全体で取り組む必要があると考える。

○重症者ホームひさやま研究班

「半年を経過してグループホームの生活・運営の振り返り」

今年度7月に重症者ホームひさやまが開設し半年が経過した。現在までのホーム運営振り返りを行った。入所施設との差別化を図り出来る限り利用者のニーズに沿った家庭的な生活を提供できるように支援してきたが、よりご本人や保護者のニーズに添えていく為に相談支援事業所や他福祉サービスと連携してサービス等利用計画を基に支援していく必要がある。

○ひかり棟看護研究班

「S氏の骨折事例を通して骨折予防を考える」

S氏の骨折の原因として考えられる情報から全体像を把握した。不自然な姿勢に対してはクッションを用いた姿勢管理を行い、移動時はバスタオルを用い、食事・入浴・排泄などの日常生活援助の注意点に沿ったケアの徹底を実施した。カンファレンスを実施し他職種間で意見交換を行った事でS氏の問題点を多面的に捉えることができた。本人のQOLの向上を図り

その人らしい生活が送れるよう支援していく事が私たちの役割である。

○めぐみ棟看護①研究班

「喉頭気管分離術後の気管孔の現状」

近年、外科的治療として喉頭気管分離術が多く行なわれるようになり、当園においても術後の看護を行う機会が増加している。昨年度に喉頭気管分離を行った4名の術後の現状について検討を行った。術後、慢性的な呼吸障害が改善されQOLの向上が図れたが、気管孔狭窄がみられカニューレ挿入を行った。挿入によるリスクが考えられるため、固定方法・吸引方法・カニューレの素材の選択など様々な工夫が必要である。

○短期入所研究班

「短期入所中の事故防止に向けた日課表導入の試み」

短期入所受け入れでは、ただ預かるだけではなくニーズに沿った支援を事故なく行う事が必要である。前年度の課題から日課表を作成する事で事故を防止できると考え検討した。使用に関しては肯定的な意見が多く、研究期間中のケアの実施忘

れなどは見られなかった。日課表を短期入所中の事故防止手段として活用するためには、内容を明記する基準の明確化、作成・更新方法などの検討が必要である。

○管理棟研究班

「防火における職員の意識向上に向けてPart II」

ほとんどの職員が火災に遭遇した経験がなく、実際の場面ではどう動いたら良いか分からないという意見が多かったため、全職員が自信を持って行動できるように課題を抽出し、より高い防火意識を持つてもらう事を目的とした。部署ごとの避難訓練後の検証や話し合いで様々な改善点があげられ意識が高まり、実践的な避難訓練へ変わった。今後、生活棟だけではなく間接部門への訓練も必要であると考える。

○ひかり棟介護2研究班

「人との関わりを求める利用者に対しての取り組み」

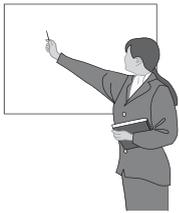
人との関わりを多く求めているA氏に対し、関わりが取りにくい環境であることが見えてきた。情報収集の結果、要因として生活環境の変化や身体機能低

下もあるが、反芻が一番の要因であると考えた。関わりの有無で反芻量に変化し、笑顔や発声が多く見られたことから今後は実際に関わりを持ちやすい方法を探っていききたい。また、本人の望む関わりと介助者側の応えようと考える気持ちが必要である。

○給食サービス研究班

「『利用者の記念日を祝う』方法の検討く食事にメッセージを込めて」

季節や行事に合わせて行事食を提供してきたが、嚥下困難食では安全性が優先されるため楽しさを演出する事が難しい現状にある。そこで嚥下困難対応食の考案、個別に記念日をお祝いできる方法などについて検討し、演出方法の充実のために職員のデザインコンテストを実施したり保護者学習会を開いたりした。新メニューは研究途上だが、技術の向上や手法を検討し利用者の豊かな食生活につながるよう努力したい。



小学部・高等部合同卒業証書授与式(施設生)

3月4日に小学部・高等部合同の卒業証書授与式が久山療育園で行われました。小学部からは楠田福美さん、高等部からは池田三国さん、高内田裕美子さん、矢津里恵子さん、山口久美さん、矢山一美さん、岡本修一さん、古賀豊さんの計8名が卒業されました。



役であるかのように張り切った送辞を行うことができました。卒業生の皆さんが日々の学習活動に安心して取り組み、無事卒業を迎えることができたのも、保護者の皆様を始め、久山療育園の職員の方々の細やかなご配慮、ご協力、ご理解のおかげです。心より感謝いたします。

中学部・高等部合同入学式(施設生)

高等部を卒業された7名の生徒さんは、やや緊張の面持ちで入場される方、しっかり手を伸ばして卒業証書を受けとられる方、退場時に祝福の言葉を受けて微笑まれる方など、いろいろな形で卒業をかみしめられています。また、在校生代表として参加した高等部2年の高木健太さんも、まるで自分が主

今年度、訪問教育では、中学部に楠田福美さん、高等部に中山剛さんの計2名の新入生を迎えました。心よりお祝いを申し上げます。心よりお祝いを申し上げます。入学式は、4月7日に久山療育園地域交流ホールで行われました。式はとても和やかで、



喜びに包まれて行われました。「新入生歓迎のことば」では、高等部3年に進級したばかりの高木健太さんが、3月の卒業式と同様に明るく元気に歓迎の気持ちを述べてくれました。「新入生のことば」では、楠田福美さんが高木さんに負けないくらいに笑顔で学校生活を楽しみにしている気持ちを述べてくれました。

いよいよ新学期です。今年度の福岡特別支援学校の訪問教育は、在宅生と久山療育園生の全員で15名、そして訪問教育職員は6名でのスタートとなりました。楽しく充実した学校生活を送れるように取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。(福岡県立福岡特別支援学校訪問教育職員一同)

「第18回 久山療育園のために 2016チャリティコンサート」報告

「第18回 久山療育園のために 2016チャリティコンサート」は、今年、第18回目を迎え、5年前から西南学院大学チャペルで開催されていますが、今年も2月27日(土)に、同チャペルにて開催されました。

今年は、昨年出演いただいで大変好評を博した、プロの韓国オペラデュエット「Hue (ヒュー)」に特別ゲストとして参加いただき、春に結成され今回二度目の出演となった「西南学院ゴスペルクワイア」の力強い歌声、そして、今回初めての出演となりました、日本フィルハーモニー交響楽団チェロ奏者の江原望さんの演奏もあり、素晴らしいひと時を楽しむことが出来ました。

最終的に、入場料収入や当日券販売や、当日の寄付金や西南学院のグッズ販売による収益金を合わせて、429,576円が実行委員会から久山療育園に贈られました。実行委員会では、西南学院大学宗教部・ボランティアセンターの古庄敬文室長、キャンパスサポート西南の船越寛治氏らのお働きでスムーズに準備でき、当日の運営も、久山療育園の方々とキャンパスサポート西南や西南学院の関係者の特別な働きによる協力によって、総じてうまく開催されたことを感謝いたします。

今回も久山療育園の紹介DVDの映像を通して参加いただいた来会者に久

山療育園の働きを知っていただく良き機会となりました。最後に、今年も教会でのチケット販売が減ってきていることが大きな課題と言えます。来年は、抜本的な見直しが必要だと思われれます。バプテスコロニー友の会運営委員 高良 研一(学校法人西南学院 常任理事・事務局長)



「江原 望さん」



「目録授与式」



藤田 英彦

日が暮れると、いろいろな病気で苦しむ者を抱えている人が皆、病人をイエスのもとに連れて来た。イエスはその一人一人に手を置いていやされた。

(ルカによる福音書4:40)

この「愛の手を」誌がお手元に渡る頃は、参院選で賑わっている頃かも知れません。

安倍首相は、この選挙の結果で憲法改正を行うと再三発言しています。敗戦後70年、この政権によって何時でも「戦争の出来る国」になり、更に憲法が変えられようとしています。私はこれは「壊憲」というべきだと思います。うのですが、具体的に「前文」や「第9条」だけの問題だけでなく、基本的人権が謳われる第3章に関してしっかりと目を通す必要があると痛感します。

「日本国憲法」は、日本人の基本的生き方を示します。これをイエス・キリストに比べてみましょう。イエスは、連れて来られた癒しを求め、病人一人一人に手を置かれました。かけがえのない命の癒しを求める個

人一人一人にです。

〈日本国憲法〉

第13条 すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする。

〈自民党「日本国憲法改正草案」(人としての尊重等)〉

第13条 全て国民は、人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公益及び公の秩序に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大限に尊重されねばならない。

先ず、現憲法の「個人」が「人」と次に「公共の福祉」が「公益及び公の秩序」に替えられています。何でもないのでありますが大違いです。イエスは「一人一人」の個人に手を置いて癒されたのです。それは「公共の福祉に反しない限り」です。

決して「公益及び公の秩序」ではありません。集団的自衛権によって「戦争の出来る国」となり、政権の言う所の「公益及び公の秩序」の為に「一人一人」が癒される「生きる権利」がないがしろにされては決してならないのです。「公益及び公の秩序」に支配される漠然とした人たちでなく、一人一人の個人の生命が尊重されることを替えてはならないのです。

めぐみ棟の活動

イースターに参加して

早いもので入職して約半年が経ちました。私はめぐみ棟で勤務しています。

今まで、開園祭、クリスマス会などの行事に参加させて頂きました。

今回は初めてのイースター。イースターと言えば色とりどりのタマゴがまじり浮かんできました。

私自身イースターという行事になじみがなく、正直あまりよく知りませんでした。

イースターとは、イエス・キリストが亡くなった3日後に蘇った事をお祝いするお祭りで、「復活祭」とも言われているのです。

その日の受け持ちのM氏とそのご両親、T氏と共にホールでお話を聞き、その後8レンジャーが登場!!会場は盛り上がりました。M氏とT氏はきよとした表情。

いよいよその後はエッグハンティングの始まりです。

集まっている利用者の皆さんの表情がパツと明るくなり、会場の雰囲気も再び盛り上がりしてきました。今回は可愛いタマゴのカプセルを探します。

「昔はホントにゆで卵を隠して、探しかれなかったゆで卵が何日かしてでてきたり・・・」
というエピソードを聞き、つい笑ってしまいました。

みんな一斉に探しに出かけあちこちから「あったー!」と嬉しそうな声が聞こえてきました。みんなにここにこして楽しいひと時を過ごしました。

良く考えたらなぜタマゴなんだろうという疑問が浮かんできました。

気になって調べてみると、キリストが死の殻を破って生命を吹き返したことで、卵が殻を破って新たな生命を羽ばたかせることを重ね合わせていると書かれていました。

また、春の女神であるイーアスターにちなんで、春の訪れを祝う意味もあるという記事もありました。

エッグハンティングが終わると、M氏とご両親T氏と一緒に園庭に散歩に出て、桜やチューリップをみながらみんなで春を感じました。とてもいい一日でした。

(めぐみ棟 看護師 本多)



「礼拝」

メモ帳

【1月】
▽7日 福岡特別支援学校3学期始業式
▽14日 国際エステティック専門学校生ボランティア(2名)
▽15日 認定看護師研修会・公開講座(受講者50名/17日)
▽20日 福岡特別支援学校授業参観
▽21日 通所成人式(参加者30名うち新成人利用者2名)
▽22日 第一生命労働組合職員見学(3名)
▽26日 社会福祉法人指導監査(監査官2名来園)
▽28日 福岡地方連合牧師会(参加者24名)、医療法人海洋会見学(3名)

【2月】
▽8日 埼玉県太陽の里よりグループホーム見学(2名)
▽17日 福岡特別支援学校入試、障害者支援施設若宮園見学(3名)
▽20日 保護者会役員会と懇談会
▽21日 守る会母親部会懇談会
▽22日 香蘭女子短期大学保育学科実習(2名/3/4)
▽27日 バプテストコローニアの会主催2016チャリティーコンサート(西南学院大学チャペル参加来場者約300名)

【3月】
▽3日 2015年度療育体験研究発表会
▽4日 福岡特別支援学校小・中学部卒業式(対象者7名)
▽5日 第38回九州地区重症心身障害研究会(佐賀市参加者33名)
▽7日 バプテスト社会福祉事業団連絡協議会(博多グリンホテル)、福岡女学院大学子ども発達学科実習(2名/3/18)
▽9日 新宮町三台放課後等デイサービス「とわ」見学(5名)
▽10日 防衛医官研修(2名)
▽12日 認定看護師研修会/13日迄
▽18日 福岡特別支援学校修了式/24日 通所「宇宙」卒園式(対象者2名)
▽25日 消防署の立入検査/30日 福岡高等看護専修学校一日実習(39名)

ひかり棟の活動

毎月の楽しみ「喫茶活動」

3月24日。今日は、ひかり棟の皆さんが楽しみにしている月に1回の喫茶活動。

今月のお菓子は、和菓子!! 饅頭やきんつば等おいしそうな和菓子がたくさんありました。種類が多かったので、選んでいる時「どれにしようかな?」「これも良いけど、あれもおいしそう!」と皆さんのしそうな様子。スタッフと一緒に自分の好きなお菓子を選びます。

外の天気は快晴。それに、庭には桜や菜の花、チューリップといった花がたくさん咲いていたのでお菓子を食べる前にお花見をしました。お菓子やジュースを一旦机に置いて・・・外へLet's go!! 外は風が心地良く、太陽の日差しが気持ちよかったです。お花見をしながら皆さん思い思いの場所を選び、写真やパシャリ。綺麗に咲いている菜の花やチューリップと一緒に写った方が多かったです。

お花見を満喫した後は、お待ちせしました!! お菓子Timeです。選んでお



「食べすぎに注意してネ!!」

たお菓子とジュースを嬉しそうにパクリ! 普段の食事では時間のかかる方もペロリ! 皆さんおいしそうに食べられているので、介助をしているスタッフも食べたくなっちゃいます♪

満面の素敵な笑顔がたくさん見られ、笑いの絶えない楽しい1時間でした。来月のお菓子は何かなくと今から待ち遠しい限りです。
(ひかり棟 介護福祉士 花田)

「リハ企画」ファッションショー

私たちリハビリテーション課の活動の中で、月に1度の頻度で行っているリハ企画という活動があります。企画されている方の、【日入所されている方の、【日常ではやっていないけれどもできる動き】【自ら動く】ことを目的に実施しています。毎月、多くの方に参加していただき楽しく開催できています。

できました。

当日は自分で選択した衣装を着て、リハビリ時に行っている姿勢を他の入所の方や職員に見てもらい、注目され、歓声を浴び、一人ひとりが生き生きとした笑顔でランウェイを歩きました。一人ひとりに、当日だけではないドラマがありました。当日のトップバッターをドキドキしながら準備していた方、ご家族様が衣装を探し回っていただき当日を迎えられた方、仲の良い入所者と参加するために衣装や小物を一緒に選択した方、参加者が決定した後も参加希望があり数日前に飛び入り参加になった方など様々いらっしゃいました。

リハビリスタッフだけではなく十分な所は病棟の職員にも協力をいただくことで、入所の方一人ひとりがとても素敵に輝いています。しかし、更に輝けるのではないかと常に考えています。もっと上手に電動車ですが操作できる姿勢やコ

私たちがリハビリテーション課の活動の中で、月に1度の頻度で行っているリハ企画という活動があります。企画されている方の、【日入所されている方の、【日常ではやっていないけれどもできる動き】【自ら動く】ことを目的に実施しています。毎月、多くの方に参加していただき楽しく開催できています。

リハビリスタッフだけではなく十分な所は病棟の職員にも協力をいただくことで、入所の方一人ひとりがとても素敵に輝いています。しかし、更に輝けるのではないかと常に考えています。もっと上手に電動車ですが操作できる姿勢やコ



「私かつこいいでしょう!!」

ントロールバーの位置はどこなのか? もっと歩きやすい歩行器の高さはどこなのか? もっと活動的になることができる姿勢はどこなのか? そのためには日々のリハビリはどのような介入を行うと良いのか? 答えは入所者の方が持つておられると思います。入所者の【やりたい!】を叶えられるよう、もっと楽しく生活できるように、リハビリスタッフとしてこれからも頑張っていきます。次回のファッションショーも楽しみに待っていて下さい。
ファッションショーの写真は病棟入口付近に掲示してありますので、是非ご覧ください♪
(理学療法士 川上)

通所の活動

『そつえんしき』

三月二十四日、幼児クラス(宇宙)の卒園式が行われました。今年度は男の子一名、女の子一名の計二名のお友達です。ピシッとスーツを着飾ると、すっかりお兄さん、お姉さんの顔立ち。皆から囲まれると「今日は主役」と感じてか、なんだかニコニコ。とても嬉しそうな表情でした。フラワーシャワーの中、お母さんと一緒に入場し一年間の思い出がたくさん詰まったスライドショーを見ました。映像に写る子ども達の姿を見て改めて成長を感じ涙がこぼれそうになりました。またお世話になった医師・リハビリスタッフ、その他の先生方から心温まるメッセージを頂きました。今年度は成人さんから歌のプレゼントで手話を交えて「にじ」を合唱してもらいました。この曲は思いつきの曲となり、心の中にいつまでも響いていくと思います。

宇宙のお母様たちは本当に元気で明るく、宇宙は笑顔の絶えない場所でありその中で子ども達はのびのびと笑顔を浮かべています。チームワークが良くずっと昔からのお友達?という様に本当に温かな雰囲気は、周りをとっても勇気づけてくれます。これからもお母様たちの愛の力をよろしくお願ひしますね!

二人の子ども達は元気に久山療育園宇宙組を巣立っていきますが、いつ

までも第二の家としてスタッフ一同見守っていききたいと思ひます。小学校でも色んな事にチャレンジして、新しいお友達をたくさん作って下さいね♪
「たくさん笑って、たくさん楽しんでね」応援しています。

(通所 保育士 汐田)



「そつえんしたよ (^o^)」

『2016年度通所始園式』

四月一日、久山療育園地域交流ホールにて通所始園式が行われました。今年度は、二四名の利用者様が集合して、会場はとても賑やかでした。昨年七月より新設された「グループホーム」の一〇名も含めると利用登録者は、「生活介護事業」、「児童発達支援事業」、「放課後等デイサービス(休日)事業」合わせて六〇名を超える大所帯となります。昨年七月よりは「第二療育室」も出来て活動の場も大きく広がり、よ

り充実した療育活動を提供出来るようになってきました。

今年度から新しく通所を利用される四名の新規利用者様は通所に慣れるまで少し戸惑うかもしれませんが、私



「始園式」

たちスタッフは全力で真心を込めて支援していききたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。始園式恒例の、通所を支えてくださるボランティアの皆様と一緒に撮った「集合記念写真」には、明るい笑顔がたくさん詰まっています。

(通所 介護福祉士 島本)

花見とお好み焼きパーティー

三月三十一日に役場前の公園でお花見をしました。前日までの天気予報は雨・・・。楽しみと不安を抱えたまま当日を迎えましたが、当日はみんなの願ひが通じ、何とか雨が降らずにお花見を開催する事が出来ました。

当日は利用者十名と保護者、ボランティアの方とたくさんの方に参加していただき、大勢でわいわいと楽しみました。花見会場に着くとほぼ満開の桜の前で写真撮ったり、お



弁当を食べたり、楽しい時間を過ごしました。みんな桜を見て綺麗だねと笑顔が多く見られ、外で食べるお弁当はいつもより美味しく感じているようでした。食後にはデザートもあり利用者の方は花より団子?のようでした。楽しい時間はあっという間に過ぎ、桜を惜しみながらホームへ帰り、また来年も行きたいねとみんな話していました。

四月十六日はホームにて、お好み焼きパーティーを開催しました。みんなの前で焼かれるお好み焼きに大興奮!ソースとマヨネーズと鰹節をかけた、温かいうちにパクツ!美味しい美味しいと、ペロリと食べてしまいました。

今年度は毎月行事を予定しており、これからも楽しい行事をたくさん計画しています。ご家族やボランティアさんの手を借りながら楽しい思い出がたくさん作りたいたいです。

(グループホーム介護福祉士 前田)

新入職員さんの紹介

4月から新しい仲間を9名お迎えしましたので、紹介します。

- ①名前、②職種、③趣味
- ④1ヶ月働いての感想
- ⑤これからの目標



- ①本庄 友美
- ②看護師(ひかり棟)

③車でドライブ、旅行
④保護者の方や職員の皆さんから「おかえりなさい。また、よろしくね」とお声を掛けて頂き、感謝の気持ちで働いています。改めて学ぶことも沢山です。日々、看護を実践する中で入所者の方々の生きる強さや命の尊さを肌で実感し、また、入所者の方々の笑顔や肌の温もりに私自身がパワーを頂いています。ありがとうございます。ございます。

⑤2014年に退職しましたが、一人ひとりの入所者の方々と向き合った看護をしていきたい、経験を生かしたいと思い、4月に入職させてい

ただき再出発しました。看護師として、入所者の方々の健康維持に努め、療育的視点を持った関わりを大切に行い、日常生活が安心でより豊かなものとなるように。また、ご家族への支援が出来るように努めてまいります。どうぞ、よろしくお願い致します。



- ①加藤 依織
- ②看護師(ひかり棟)

③食べることが大好きです。
④4月から新社会人として働きだし、学生の頃とは違って出来ることが多くなった分、一つ一つの行動に対して責任を持つことが大切だなと感じています。

⑤一人の看護師として立派に働けるようになるために、日々勉強をして、自分出来ることを一つでも増やせるように頑張ります。



- ①古清水 ひろ美
- ②看護師(めぐみ棟)

③読書、旅行、ドッグカフェ巡り
④皆さんから丁寧にご指導いただき、少しずつ日々の業務にも慣れてきました。また、入所者の方の名前も覚え、コミュニケーションをとっていくことで、楽しく仕事が出来ています。



- ①山口 みおり
- ②介護福祉士(ひかり棟)

⑤入所者一人ひとりともしっかりとたくさん関わりを持ちたいです。その中で、その人に合った看護や必要なケアを考え、実践できるようにしたいと思えます。そのために、自分一人ではなく、他のスタッフの方から積極的にアドバイスをいただき、色々と学んでいく必要があると思っています。これからもどうぞよろしく願い致します。



- ①柳 裕介
- ②介護福祉士(ひかり棟)

③ダンス、バレーボール
④覚えることが多く大変ですが、周りの職員の方が話しかけて下さったり、分からないことも丁寧に教えて下さいます。学ぶことが多く、とても充実しています。

⑤入所者の方の名前や特徴を早く覚えて、入所に合った介助が出来るようになることです。

③面白い物。友人と話しながら、美味しいご飯を食べ、美味しいお酒を飲むこと。ドライブ。映画鑑賞。サッカー
④職員同士の仲が良く、とても雰囲気の良いなかで、毎日楽しく働くことができています。覚えることがどんどん出てきて、頭がパンクしそうになる時もありましたが、入所者の方たちと毎日関わることで、たくさんの方々の笑顔と元気をもらい、楽しみながら日々を過ごすことが出来ました。

⑤毎日の業務や、入所者のことを早く覚えて、入所者・職員・保護者の方に頼られる存在に



- ①安部 葵
- ②介護福祉士(ひかり棟)

③スキー、ショッピング
④まだまだ慣れないことも多いですが、入所者の方の笑顔に元気をもらっています。
⑤早く業務に慣れ、一人ひとりの入所者の方と多く関わって行きたいです。毎日笑顔で頑張ります。



- ①樋口 聡子
- ②介護福祉士(めぐみ棟)

③読書、映画鑑賞、野球観戦、ウクレレ(練習中)
④学校を出たばかりで、介護福祉士として初めての経験をさせて頂いています。分からないことや戸惑う事が数多くあり、頑張ろうと思う気持ちとは裏腹に、空回りしてしまうことばかりですが、その都度、的確なご指導を頂き、有難い気

なりたい。

持ちで一杯です。入所者の方との日々の関わりは、大きなエネルギーとなっています。

⑤入所者の方のお名前・お顔をしっかりと覚え、その方がどのような事や物がお好きか、どのような生活を望んでいらっしゃるかなどを知り、その方にとってのより良い一日とはどのようなものなのか、入所者の方とのコミュニケーションを図り、職員の皆さんの入所者への関わりの様子やご指導などから、多角的に学んでいきたいと思えます。また、何故、このようなポジショニングが必要なのか、何故、このような支援を行うのかなど、根拠のある関わりについて、学びを進めていきたいと思えます。



①岡本 華慧
②理学療法士(リハビリ)
③旅行。体を動かすこと。
④新人プログラム、研修がしっかりとされており、色々な方が丁寧に優しく教えて下さりすごく働きやすい。
他職種間との仲が良く、入所者の方のこと等相談・協力し

て頂きやすい。研修を積む中で、理学療法士だけの視点ではなく、他の職種の方の業務を体験することで、他の視点でも見えるようになった。

⑤業務に早く慣れ、知識を身に着ける。先輩から学ぶだけでなく、自らも学んでいく。他職種との連携をとり、入所者の方がよりよい環境で過ごせるようにしたいと思えます。



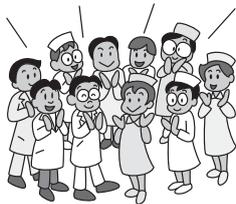
①戸山 祐佳
②作業療法士(リハビリ)
③ハンドメイドで、小物などを作ること。
④毎日とても楽しく皆さんと過ごさせてもらっています。まだまだ分からない事があつたり、上手くないかない時もありますが、入所者の方の笑顔に癒されています。
⑤まずは入所者の方、職員の方の名前を憶えて、たくさんお話していきたいと思つています。そして、一人ひとりに合った作業療法が出来るように頑張ります。毎日、皆さんと笑顔で過ごして行きたいです。

職員 の 異 動

(2015/2/1~2016/4/30)

【退職】

- ▽貴島 朋子(保育士)2/29付
 - ▽野中 尚子(看護師長)3/31付
 - ▽川嶋 愛(看護師)3/31付
 - ▽國崎 愛(看護師)3/31付
 - ▽浮橋 美貴(理学療法士)3/31付
 - ▽川原 佑貴(介護福祉士)3/31付
 - ▽徳満亜耶子(介護福祉士)3/31付
 - ▽上原佳鈴美(介護福祉士)3/31付
 - ▽桐生亜沙美(介護福祉士)3/31付
 - ▽徳淵 幸加(事務員)3/31付
 - ▽株木 孝子(療育員)3/31付
- 【採用】
- ▽加藤 依織(看護師)4/1付
 - ▽本庄 友美(看護師)4/1付
 - ▽古清水ひろ美(看護師)4/1付
 - ▽安部 葵(介護福祉士)4/1付
 - ▽山口みのり(介護福祉士)4/1付
 - ▽柳 裕介(介護福祉士)4/1付
 - ▽樋口 聡子(介護福祉士)4/1付
 - ▽戸山 祐佳(作業療法士)4/1付
 - ▽岡本 華慧(理学療法士)4/1付
 - ▽戸田麻衣子(療育員)4/25付
- 【継続雇用】
- ▽土生 邦彦(通所療育課長)4/1付
 - ▽中根 史子(会計課長)4/1付



第40回開園祭について (お知らせ)

久山療育園が創立40周年を迎える本年2016年の開園祭は例年とは異なり、設立の原点に立ち返り、記念事業の一環である「重症児者ホーム」や地域支援センターを皆様に見ていただくと共に、施設の利用者や保護者の方々及びそれを支える職員、スタッフとの交わりを深め、今後の運営にあたってビジョンを考える機会にしていきたいと思つています。従つて従来の「商品バザー」や「食品バザー」は原則中止し、記念式典と記念講演及び施設展示とコンサートなどの各種イベントを計画しております。

細部については今後詰めていきますので、皆様のご支援と協力を今後ともよろしくお願いいたします。

主な日程等は次のとおりです。

1. 日時 2016年9月22日(木・祝日)10時から15時(予定)

2. 場所 久山療育園交流ホールなど

共に働く仲間を募集しています

- ① 小児科医師
- ② 看護師
- ③ 介護福祉士・保育士

【連絡先】

久山療育園重症児者医療療育センター

TEL: 092-976-2281 (担当:小脇)



ボランティアだより

ボランティア紹介 高木 妙子さん



高木妙子さん

今回は木曜日に来て下さっている高木妙子さんをご紹介します。

高木さんは一昨年の8月からボランティアに来て下さっています。現在は第二、第四木曜日にボランティア室でのたたみ物作業を中心に活動していただいています。今年に入ってからは病棟でのグループ活動や喫茶活動、紙芝居をしてくださるボランティアさんのサポート等、利用者さんとのふれあいにも入って頂くことが増えてきています。

もともと高木さんのお姉様で、同じくボランティアとして長く当園に関わって下さっている吉富さんから園の話聞いて30年ほど前の開園祭で初めて来園され、重症児者の方々を見て衝撃を受けたと同時に何か自分にもできることはないかと考えられたそうです。しかし当時

はまだお子さんも小さく、子育てや仕事をこなすことで精いっぱいだったため、すぐにボランティアに来ることが出来なかつたと話されます。その後子育ても落ち着き、仕事も退職され少し時間に余裕も出てきたところに、吉富さんの勧めもありボランティア活動を始められました。

活動を始められて2年近くになりますが、高木さんはボランティア活動の時間はご自分にとって大事な時間になっているとおっしゃいます。「今を精いっぱい生きている利用者の方々を見て、とても感動し毎回励まされています。利用者さんとのコミュニケーションは難しくまだ自信はないけど、自分が遠慮してしまつたら何も始まらないと思います、声かけや挨拶は積極的にしよう」と心がけているそうです。

利用者さんとの関わりはもちろんです。ボランティアの皆さんと過ごす時間もとても大事な時間で毎回楽しみにされています。「会社にいる時は、社内で世間話をするにも上司と部下などの上下関係や立場などもあ

り気を遣つたり本音がなかなか言えないこともあったけど、ボランティアの皆さんとの関係では日常生活や体調のことなど身近な相談も気軽に話せて、とても素敵な先輩方に囲まれて良かった」とおっしゃいます。利用者さんだけではなく、一緒に活動しているボランティアの皆さんとのお話や関わりで励まされることも多くあるそうです。

そして高木さんは利用者さんやボランティアさんとの関わりだけでなく、ボランティア送迎バスの存在も重要だと話されます。久山療育園に行こうと思つても福岡市内からは少し離れていて交通手段もあまりなく、通うにはちょっと不便かなと思いがちですが、ボランティアのた

めの送迎バスがありとても魅力的だとおっしゃいます。それだけでなく、帰りのバスの中では皆でボランティア活動の1日を振り返り、最後は「皆元気に帰って帰れるね」と言い合つて帰宅されるそうです。「ボランティアのための送迎バスは珍しいと思うし、このバスの中でもボランティアさん同士の交流もあるのです、もし交通手段などでボランティアに行くのを悩んでいる方がいたらこのバスの存在をぜひアピールしたい」と熱く語って下さいました。

今後、今のペースで無理せず長くボランティア活動をして

いきたい、少しでも園のお役に立ちたいと話してくださいました。こちらこそ、今後ともよろしく願います。

(相談支援員 中野)

ボランティア講習会の案内

○開催日時

・夏季コース

7月16日(土)

・秋季コース

11月12日(土)

9時30分～15時まで

(※昼食はお弁当を用意しております)

○内容

・久山療育園と重症児者について

・ボランティア活動の紹介

・ボランティアさんの体験談

・保護者の体験談

・入園利用者との交流

重症児者へ関心をお持ちの方なら、どなたでも受講できます。どうぞお気軽にご参加ください。

ご質問・お問い合わせ先
092-976-2381(代)

ボランティア担当

山田(建) まで

歩行器



今年度も久山療育園に10名の職員を新しく迎えました。夢と希望。そして一抹の不安を抱えながら仕事に邁進されている姿を見ると、我々も大いなる刺激を受けています。

「学び」には3つの段階があるとされています。

第1段階は、「先輩から聞き、参考文献などを読んで覚える」

第2段階は、「自分の頭で考え抜く」

第3段階は、「自分で実際に行動して覚える」

この3つのうちどのひとつとして欠けても上手くいかない。

それは、1が欠ければ「我流」となり、2が欠ければ「借り物の知識」であり、3が欠ければ「評論家」となるからです。

私たちの仕事は常に重症児者の皆さんと向き合っています。命の尊さ、重さ、輝きなどを見つめつつ、その時に一番ふさわしい医療・介護・療育のサービ

スを提供する責務と喜びがあります。

一人ひとりの笑顔や何気ない仕草などから神様からの恵みと祝福が私たちに与えられています。

今年創立40周年にあたり、設立の原点に立ち戻り「共に生きる」という理念を再確認したいと願っています。

(M・U)